

ダンス分科会

民舞分科会

基調提案

「舞踊・表現の研究とあゆみと今後の課題」

井上良江（東京支部 杉並区立桃井第五小学校）

ダンス分科会 実践提案

「先輩が作った作品を後輩が膨らませる」

中村安希子（京都支部 京都府立北桑田高等学校）

民舞分科会 実践提案

「七つの道具でおどりたい！ ～保育園年長クラス・七頭舞の取り組み～」

今村亜希（広島支部 なかよし保育園）

民舞分科会 実践提案

「みんなが夢中になった七頭舞」

河嶋麻祐子（広島支部 口田なかよし保育園）

参加者の感想（大会速報「かもがわ」より）

* ダンス

・最初はダンスや民舞の知識がない状態で聞いていたので、正直よくわかりませんでした。でも、ダンスがただ体を動かすということではなくて、筋肉など細かい部分から意識して動かすということがわかっただけでも大きな収穫でした。明日からの分科会がとても楽しみです。（兵庫・Mさん）

・立つ重心が、足首くるぶし中心という、そこを意識して立ち、足幅を少しずつずらして安定、不安定などの学習。背骨の一つ一つを感じ、意識できる無理のない動き。やり終えた後のさわやかな体を感じています。午後の歩く学習、とても楽しみです。（京都・Yさん）

・立ち方を教えてもらい、自分の体の重心が大事だと思った。体のどこでも重心を傾けることができるんだと思った。まずは、自分の体を感じて、体へと伝える。それがダンスへの一歩だと思った。こんなに自分の体と向き合うことがなかったので、楽しかったです。(兵庫・Hさん)

・昼休みに見せてもらった先生の教え子の映像において、そこに映る子どもたちは生き生きして、相手に何かを伝えよう！という気持ちがひしひしと伝わってきた。さらに、現代の高校生からは見られないような真剣さが見られたので驚いた。最後のグループ発表では、まわりの方の創造性というかユニークさというか、そういった個性の違いを感じた。先生方の話し合いは、こんなものなのか！と新しい発見だらけの研究会で、本当に楽しかったです。(Aさん)

・足の指や足の裏、関節や骨のことなど、自分の体のことなのに今まで深く考えたことがなかった。でも、一度しっかりと自分の骨などを認識し直し、意識しながら歩いたり動かしたりするだけで、客観的に見て何かが変わったりしたのがびっくりした。

“意識”をするだけで、知らないうちに体の動きも変わってくるのだと気づき、意識することの重要性を感じた。普段の“何気ない”動きを“意識して”行うことが新鮮でテクニックだけのダンスではなく、体を使う、動かすという楽しむダンスのあり方を知れてよかった。ありがとうございました。(京都・Nさん)

* 民舞

・民舞が大好きで七頭舞にふれたいと思って参加しました。この3日間を通して、七頭舞の背景にあるものに目を向け耳を傾け、七頭舞を通して子どもたちに何を伝えたいか、何をいっしょに学びたいかを、少しでも感じることができればと思います。お世話になります。(兵庫・Kさん)

・「民舞で何を伝えていくのか」「教材化していく根拠」など、大きな課題であると感じました。同志会の運動文化としてとらえた民舞を、同志会の中だけで踊っていていいのだろうかという思いがありました。小学校のカリキュラムの中に位置づけることを考えると、もう少し同志会の中で育てたものを広めていかないともったいないです(しかし、しっかりと位置づけが私の中にまだできていないのでむずかしいですが)。毎年同じことが論議されていて、少しは進歩しているんだろうなあとと思うのですが。新しい一歩はどうすればよいのかと考えています。(山梨・Sさん)

・運動会 = 民舞、というイメージがとても強く、初任のときに見た「七頭舞」がとてもかっこよくて、今回分科会でやると知って参加しました。

「民族」と「民俗」の違い、とてもわかりやすかったです。

七頭舞の楽しさを味わいながら明日は提案をじっくり聞きたいなと思っています。(東京・Mさん)

・とても内容の深い実践で七頭舞を踊るとき子どもたちの表情が印象的でした。また、先生方が楽しみながら実践する姿が子どもたちに向上心をもたせるきっかけになることもわかりました。

質問は、この七頭舞を通して子どもたちの体づかいや感覚がどう変化したのか？変化しているのか？ということです。教材化においては、授業者が何を伝えたいのかと同時に、伝えた結果どうなったかについても見つめる必要があるということに気づかされました。(愛知・Kさん)

・民舞を通して子どもたちに学ばせたいこと、つけさせたい力をしっかりと考え、実践していかななくてはいけないということが改めてわかりました。(兵庫・Sさん)

・なかよし保育園の担任や担当年齢の職員だけでなく、全職員が一丸となって、子どもたちの民舞の取り組みに関わり支えている姿を見て、ステキだなと思いました。「なぜ七頭舞？」「なぜ民舞？」という質問に、私も保育士として深く考えなくてはいけないと感じましたが、学校の「授業」としての指導と、生活の流れ・遊びの流れのひとつとしてとらえられている子どもたちの指導とは、また違うものがあり、考え方の難しさも感じました。(埼玉・Kさん)

・久しぶりに舞った「七頭舞」やはり最高でした。右腰・右足・右肩がスッと前に出て、踏み込む感覚、からだが一瞬無重力になる感覚、これがとても心地よい。これが民舞を教材とする価値の一つであると思う。さらに二人組みになって動きを合わせて決める 集団へつながる。この感覚も good！ 魅力ある教材をどう生かすか。教師の声かけひとつでがらっと変わる。う～ん、奥が深い勉強が必要です！！ (鹿児島・Bさん)

・自由に動かなくなった身体で民舞なんて踊れるのかすごく不安だった。でも動いた。それがとってもうれしかった。重心をどっしりとる。そんな足場を意識してビシッと決まるとなかなかかっこいい。そんな気持ちよさを味わった。二人の切り合いの間、距離感などをやっている間に「オーラが出てるよ」なんて二人で話したのも楽しかった。

子どもに教材化するのは、まだまだ遠いなあ～。(和歌山・Uさん)

・午前中は「？」ばかりでしたが、自分で踊ってみて、川崎先生が書いていらっしゃる「体づかい」「間」が大事なのかなと思いました。一人で踊っていてできないと焦るばかりでしたが、ペアになると教えてもらえるし、ペアの人とうまく合わせようと思ってがんばれました。りゅうがくんと、ひろきくん、K.Tくんが輪に入れなかった気持ちも、できるようになってきて少しずつ進んで踊れるようになった気持ちもわかった気がします。

七頭舞の魅力は、踊りが7つの構成になっていること、道具がたくさんあること、人と間をうまくって踊れると気持ちがいいこと、なのかなと個人的には思いました。

それにしても、保育って大変だなあ～と思いました。先生たちが進んで七頭舞を学習されていること、道具を作っていること、顧問として指導していることに、ただただ感心させられました。子どもが楽しく力をつけていけるよう、いろいろなしかけを用意している先生方。私もうがんばらなくちゃ、と思いました。(東京・Mさん)